

写真等協力・提供者及び調査・執筆協力者一覧（五十音順、敬称略）

（平成二十八年十月現在）

○公共団体

阿賀野市教育委員会、諫早市、諫早市美術・歴史館、浦頭引揚記念資料館、大村市議会事務局、大村市教育委員会、大村市競艇企業局、大村市上下水道局、大村市選挙管理委員会、大村市立史料館、大村市立図書館、環境省千鳥ヶ淵戦没者墓苑管理事務所、国土交通省関東地方整備局、国土地理院、国立研究開発法人水産研究・教育機構増養殖研究所、国立公文書館、国立国会図書館、国立大学法人長崎大学、西海市教育委員会、西海市大瀬戸歴史民俗資料館、佐世保市市民生活部市民安全安心課、島原市、つくば市教育委員会、東北大学附属図書館、長崎県立大村特別支援学校、長崎歴史文化博物館、平和祈念展示資料館（総務省委託）、陸上自衛隊大村駐屯地、大和市文化スポーツ部文化振興課

○神社・寺院

厚木空神社（靖國社）、稻荷神社（片町）、大浦諏訪神社、熊野神社（原町）、皇大神宮神社、琴平神社（原町）、三社大権現（鬼橋町）、諏訪神社（諏訪二丁目）、諏訪神社（長崎市）、青松寺、大神宮（重井田町）、大神宮神社（大里町）、大神宮神社（今富町）、高野大権現、天満宮（乾馬場町）、富松神社、八幡神社（東本町）、深見神社、松尾神社（福重町）、松原八幡神社、山神宮（中岳町）

○出版社・報道機関

株式会社恒星社厚生閣、株式会社長崎新聞社、株式会社文殊社（近現代フォトライブラリー）

○一般

阿南惟幾大将顕彰会、荒平町内会、井川春彦、井川吉春、一瀬正勝、一般社団法人日本珠算連盟、乾馬場町内会、岩永春美、上野盛夫、太田和浮立保存会、鬼橋町公民館、勝田直子、株式会社アルカディア大村、川内知子、川村勝信、学校法人向陽学園向陽高等学校、北川由紀子、北村ツタ工、久田松和則、黒木町内会、公益財団法人茨城県教育財団、公益財団法人多摩市文化振興財団、後藤啓岐泰、後藤満行、駒木義弘、古屋野政子、阪口和則、作中 修、渋江三保子（水神社）、嶋原秋良、嶋原貞子、瀬崎敏満、田中 温、田中 誠、谷山 修、田峰千鶴子、出口貴美子、出口弘孝、出口正幸、富永 弘、富の原二丁目町内会、中園成生、中岳町内会、中

野雄二、長野 暹、西川正人、野口勝也(故)、日産自動車株式会社、バナソニック株式会社、原町内会、平和祈念戦史資料館設
立準備室、松本健治、水田町内会、宮崎賢太郎、山口成子、山下常道、山田庚平、横瀬西地区、横瀬東地区、早稲田大学図書館

編さん関係者名簿（順不同・敬称略）

○大村市史編さん委員会委員

委員長 吉野 哲 大村市副市長
 副委員長 田中 誠 大村市元助役
 委員
 有識者

後藤惠之輔 長崎大学名誉教授
 脇田 安大 公益財団法人ながさぎ地域政策
 研究所以事長
 高塚かず子 長崎県教育委員会元委員長
 福田 年子 長崎県立川棚高等学校元教頭
 松尾 洋子 大村市教育委員会元委員
 船橋 修一 九州教員株式会社代表取締役社長
 溝江 宏俊 大村市教育委員会教育長

専門家

藤野 保 中央大学元教授
 清水 紘一 中央大学元教授
 梅田 和郎 長崎県立美術博物館元館長
 久田松和則 大村市文化財審議会会長（富松
 神社宮司）
 大石 一久 長崎歴史文化博物館元研究ク
 ループリーター

○大村市史編集委員会委員

委員長 藤野 保 中央大学元教授
 副委員長 久田松和則 大村市文化財審議会会長（富松
 神社宮司）
 委員

松岡 數充 長崎大学名誉教授
 阪口 和則 長崎県立大村高等学校元教諭
 宮崎 正隆 長崎県立諫早高等学校元教諭
 秀島 貞康 諫早市教育委員会文化課元参事
 大石 一久 長崎歴史文化博物館元研究ク
 ループリーター
 清水 紘一 中央大学元教授
 五野井隆史 東京大学名誉教授
 半田 隆夫 福岡女学院大学生涯学習セン
 ター講師
 柴多 一雄 長崎大学名誉教授
 高野 信治 九州大学大学院比較社会文化研
 究院教授
 田中 誠 大村市元助役
 梅田 和郎 長崎県立美術博物館元館長
 杉谷 昭(敬) 佐賀大学名誉教授（平成二十
 八年五月二十四日）
 長野 暹 佐賀大学名誉教授

（平成二十八年十月現在）

○第五卷 専門部会

現代・民俗部会

部会長 久田松和則

大村市文化財審議会会長(富松神社宮司)

委員 田中 誠

徳永 武将

大村市元助役
平和祈念戦史資料館設立準備室
室長

民俗編

久田松和則
大村市文化財審議会会長(富松神社宮司)

野本 政宏
大村史談会会員

米光 丁
和算研究家

田中 誠
大村市元助役

佐原 貴子
大村市総務課市史編さん室嘱託
員

○第五卷 執筆者

現代編

後藤惠之輔
長崎大学名誉教授

森山 信孝(故)
大村史談会会員(〜平成二十八年三月二十三日)

徳永 武将
平和祈念戦史資料館設立準備室
室長

盛山 隆行
大村市総務課市史編さん室嘱託
員

佐原 貴子
大村市総務課市史編さん室嘱託
員

付録

久田松和則
大村市文化財審議会会長(富松神社宮司)

田中 誠
大村市元助役

高野 信治
九州大学大学院比較社会文化研究
院教授

森崎 兼廣
大村史談会会員

大野 安生
大村市総務課市史編さん室長

片岡 慶子
大村市総務課市史編さん室職員

盛山 隆行
大村市総務課市史編さん室嘱託
員

佐原 貴子
大村市総務課市史編さん室嘱託
員

○監修者

全巻

久田松和則

大村市文化財審議会会長（富松

神社宮司）

柴多 一雄

長崎大学名誉教授

大村市教育委員会

第五巻（現代・民俗編）

久田松和則

大村市文化財審議会会長（富松

神社宮司）

○大村市総務課市史編さん室

室長 大野 安生

職員 片岡 慶子

嘱託員 佐原 貴子

盛山 隆行

第五巻担当

第五巻副担当

本編では昭和二十年の戦後から現代に至る大村市の歩み、生活民俗、信仰と芸能、ことばと伝承、付録として年表、系図、各種統計表、指定文化財、郷村記人名索引などを収録した。大半の大村市民が現実に見てきた昭和・平成の時代を内容とする。

戦後の復興はどの地域でも大きな課題であった。大村市では、戦前の第二十一海軍航空廠の置き土産とも言える工員住宅が、外地引揚げ者などへの住宅供給源となり一定の人口が確保できた。また国内最初のポートレース場の設置や陸海自衛隊の駐屯は、戦後の大村市発展の大きな支えとなった。

また一方では地域に伝わる生活習慣、信仰、芸能、言葉、伝承などは、生活スタイルや地域社会の急激な変化によって大きな曲がり角に立っている。先人達の暮らしぶりである民俗は、ここではその一端を示したにすぎないが、本書によって過去の暮らしぶりが偲ばれ、忘れ去られた民俗行事が掘り起こされる契機となれば幸いである。

大村市立史料館では、大村藩家臣団の系図集「新撰士系録」の閲覧頻度が最も高い。この事が物語るように我が家のルーツを調べることは、今、一つのブームとなっている。本書でも大村家系図を始め、大村史上、重要な働きをした家系を抽出した。この作業ができたのは、約五〇〇家、人数にして二万七四〇〇人余を収録する大村藩「新撰士系録」が現存するからである。この点も本市の大きな強みであり特徴と言えるであろう。

加えて藩内四七ヶ村「郷村記」は大村藩の金字塔と言ってよい。そこに収録される人名総索引を付録として収めた。この索引の完成によって「九葉実録」「新撰士系録」、この「郷村記」と三記録の人名総索引が整っ

た。一人物がこの三記録共に登場する場合もあり、それが瞬時に検索されその人物の履歴が幅広く分かってくる。今後、三記録の索引によって多方面に研究が深まっていくことが期待される。

江戸時代は文書管理が徹底し、その文書を用いた記録の編纂が数多く行われた。大村藩では、「見聞集」「九葉実録」「郷村記」「新撰土系録」「大村家記」などがそれである。本来は行政資料として纏められたものであるが、現在では貴重な歴史資料となっている。

今日の行政でこれだけの記録を残し続けている自治体が、如何ほどあるだろうか。『新編大村市史』編纂の目的は実はここにあった。江戸期の編纂事業に続くのが、まさにこの度の市史編纂であったといえる。

記述内容が難解との声も耳にする。しかし確実な史料によって正確な記述をしておけば、時代の経過と共に光を放つものと信じている。この四月、熊本地震の深刻な揺れは本市にも及び、過去を教訓に災害に備えることを痛感した人も多いだろう。既刊の市史一卷・三巻において当市内を走る活断層や地震災害史を述べ歴史的立場からの対応策を示している。市史に学ぶ卑近な例である。

本編第五巻をもって本編纂事業は終了する。準備懇談会の段階からすれば八年間の長い道程であった。多くの方々の尽力によって完遂できたことを感謝したい。ただ本誌編纂に関わった幾名かの編集委員・執筆者には、最後まで見届けてもらうことが叶わなかった。殊に自ら市史編纂を提示・牽引された松本崇前市長に、最終の五巻目を手にしてもらえなかったことは残念であり、寂しい限りである。

平成二十九年三月

現代・民俗部会長 久田松 和則

新編 大村市史 第五卷 現代・民俗編

平成二十九年三月十四日 発行

編集 大村市史編さん委員会
発行 大村市

〒八五六―八六八六

長崎県大村市玖島一丁目二五番地

電話 ○九五七―五三一四一一(代表)

株式会社 ぎようせい

〒一三六―八五七五

東京都江東区新木場一丁目一八―二

電話 ○三一六八九二―六六六六

(株)康真堂印刷

〒八五六―〇〇一六

長崎県大村市原町四六七―一二

電話 ○九五七―五五一一〇三七一

印刷